

小林真紀子

遠く咲く花

何を言っても傷つけ傷ついてしまいかもしれないと
あなたはただ爪の一枚一枚に黄桃色の花を描いていた
彼女だけのことばだった
風舞う花びらが頬に優しくふれた
私のことばは遠くでどんなふうに咲いているだろう